

離島留学

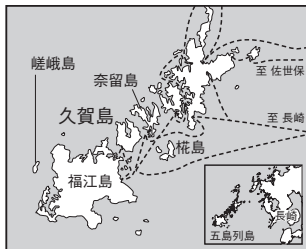
里親型

② 久賀島(長崎県五島市)——久賀小・中学校

しま留学——

学校の「元気」が、住民を勇気づける

長崎県五島市教育委員会 角田 亮明



久賀島：福江島の北東海上11.3kmに位置する。面積37.35km²、人口324人(平成28年8月末現在)。複雑な海岸線をもち、久賀湾は島の中央部まで達する。対馬暖流の影響で気候は温暖。湾を挟んで西地区では農業、東地区では漁業がおもに営まれている。

「学校の存続」を活性化の原動力に

県都・長崎市から西方約一〇〇キロメートル、東シナ海に浮かぶ五島列島の南部に位置する五島市。福江島・久賀島・椀島・奈留島・嵯峨島などの島々で構成される市の人口はおよそ三万九〇〇〇人まで減り、過疎化の大きな波が押し寄せています。市内には一九の小学校、一二の中学校(うち一校は休校中)、四つの高等学校がありますが、子どもの数の減少により、今後、学校の統合が進むことが予想されます。しかし、市の中心島・福江島と海で隔たる二次離島では地理的条件から学校統合が難しく、今後の存続が危ぶまれるほど児童・生徒数が減ってきています。そこで、島の大自然の中で生活し、極小規模の小・中併設校できめ細

かい教育を受けるといふ利点を生かした「五島市しま留学生受入事業」を立ち上げ、市外から留学生を受け入れて学校の存続を図り、学校を中心に置いて島全体の活性化を目指す取り組みを始めました。

平成二八年四月、四つの二次離島(久賀島・奈留島・椀島・嵯峨島)の中で、福江島との交通の便がもつともよく、かつ児童・生徒数の減少が著しい久賀島の市立久賀小・中学校に小学校三年生二名、中学校一年生一名、計三名の第一期留学生を受け入れました。小学生八名、中学生五名、全校児童・生徒一三名の新生久賀小・中学校のスタートです。

たくましく育つ留学生たち

久賀島の久賀小・中学校に留学生を受け入れるための体



島のみなさんに囲まれて食事を楽しむ子どもたち。



海遊びのひとつコマ。

制づくりとして、まず「住民説明会」を開催しました。事前に、チラシや島内放送で受け入れ事業の概要を島のみなさんに周知した上で、賛同していただく方にお集まりいただきました。この説明会の最大の目的は、留学生を預かり養育していただくことになる「里親さん」を確保することです。久賀しま留学制度の特徴は、留学生を日常的に預かり養育する「常時預かりの里親さん」と、その里親さんに代わって留学生を臨時的に預かる「一時預かりの里親さん」の二種類の里親さんを登録しているところです。常時預かりの里親さんの負担を軽減するとともに、多くの島人が留学生に関わる体制を築くためです。本年度は、常時預かり

里親さん二家庭と、それをバックアップする一時預かり里親さん二家庭を登録し、三名の留学生の養育に尽力していただいています。

里親さんを中心に、久賀小・中学校長、PTA会長、教育委員会事務局で組織する「五島市久賀しま留学連絡協議会」が事業の核を担います。本会の目的は、久賀しま留学制度の運営と留学生受け入れに際しての協力体制を整え、留学生の心身ともに健全な成長に寄与することです。具体的には、留学生受け入れおよび契約の中途解約の決定、事故発生時の相互支援、留学生の臨時預かりに関する調整、留学生の体験活動に関する事業の企画および実施などの活動を行っています。

また、「しま留学コーディネーター」を指名し、週休日や長期休業中の体験活動企画・運営を積極的に進めていただく体制も整えています。久賀島の豊かな自然と歴史を体感し、島のみなさんに温かく見守られ、すっかり島の生活に馴染んでいる三名の留学生。遠く離れて暮らす家族のことを思い出して寂しい気持ちになりながらも、自分の居場所をしっかりと見つけて、日に日にたくましさを増しています。

● 不便さから学ぶ、生きる力。

久賀島には、コンビニもゲームセンターもありません。島内にバスや電車もなく、夜は車も少なく静かな時間が流

れます。都会での生活に慣れた留学生にとって、決して暮らしやすい場所ではないはずですが、しかしここが、しま留学最大の魅力です。不便さの中には、想像力や思考力を培う機会が潜んでいます。人とのふれあいを肌で感じる場面があたり前のように準備されています。学校教育の中でも、里親さんとの生活でも、人との関わりの中で「生きる力」を育てる学びが約束されています。

島のみなさんも、留学生三名を、島の子どもたちと同様に「島の宝物」として接してください。島に引き継がれてきた伝統行事や地域活動の中での豊かな体験、交流の中から気づく生活の知恵、厳しいけれども温かな眼差し……。部活動に真剣に取り組み始めた中学生、島の人が集まる場所では必ず輪の中心にいる小学生の女の子、昆虫への興味・関心を倍増させている小学生の女の子。大自然の中で、それぞれの良さを力強く発揮し始めた留学生たち。その姿が、島全体を勇気づけていることも事実です。

● 極小規模の小・中併設校のメリットを最大化した「きめ細かな教育」

久賀小・中学校では、極小規模の小・中併設校のメリットを最大化するために、以下の四点に重点的に取り組んでいます。そして、すべての教育活動の土台と

なっているのが「きめ細かな教育」の実践です。

① 地域学習を意図的に取り組み、地域と連携することで、魅力ある学校づくりを推進する

② 小学校一年生からの英語教育を系統的に行い、久賀島や五島市の良さを英語で発信する能力育成

③ 島外の学校との交流学习や合同行事の積極的創造

④ 必要なICT機器を整備し、情報や思考の拡大・知らない人との意見交換を図る遠隔授業の実施

全校児童・生徒一三名が、地域と交わり、他校の仲間と交わり、さらにはICT機器を活用して遠くの人と交わる



地域活動「お魚教室」にて。みんな魚に釘付け。



五島市では小学1年生から英語を学習する。



他校の児童とともに合同学習を行った。

● **しま留学の課題と今後の展望**
 子に応じた学習プログラムや支援方法が用意されています。

留学生を預かる里親さんには、たくさんの責任が生じます。そして、実親さん同様、子どもの生活行動上の問題や心の不安定さなど、子育てに関する悩みを抱えます。これらの悩みを、実親さんと里親さんがいかに共有し対処していくかが課題となります。どんなに些細なことでも間髪入れず連絡を取り合い、互いに納得した上で里親さんに対応を任せる。そういう信頼関係を築くことが何より重要だと

中で自己の考えを形成し、主体的に表現する能力を養っていきます。また、これからの生活を見据えて「英語力」を育てていきます。さらに、日常の授業の中では、個別指導の時間を多く設定し、学習の積み残しがないよう、きめ細かにサポートしていきます。補充学習や発展学習など、その

考えます。また、里親さんだけで悩みを抱え込むことを避けるため、連絡協議会を必要に応じて開催し、情報を共有して対応のあり方を協議する仕組みづくりも必要です。さらに、受け入れの窓口となる教育委員会事務局の役割についても明確にしていかなければなりません。

実親さんへの情報提供に関することも課題です。どのような内容を、どのような方法・頻度で届けるのか。受け入れ側の責任として、実親さんの願いを汲み取りながら充実を図っていかねばなりません。学校側とも十分に連携をとりながら、留学生の島生活の様子を発信していきたいと考えています。

「五島市しま留学生受入事業」は、次年度に向けて拡大を図っています。平成二九年度の久賀島の募集定員は、三名

から五名に増やします。

また、同じ二次離島の奈留島でも受け入れを開始します。すでに住民説明会を終え、奈留しま留学連絡協議会を立ち上げ、初年度募集定員を三名に設定して準備を進めています。さらに同三〇年度以降は、久賀島・奈留島



元気に力強く思いを語る留学生。五島市中
 高校生弁論大会にて。

◆島側からみた離島留学◆

学校は「地域の灯台」、島に火を灯し続ける存在です。学校から子どもの声が聞こえることで、島は活気づき、住民は元気になります。高齢化が進む久賀島で、お孫さんと一緒に暮らしている方はほとんどいない状況です。そんな方々は、子ども(留学生)の姿をご自身のお孫さんの姿と重ね合わせて見ているのです。そして、「自分も元気で居らんば」「もっと頑張らんば」と元気づけられると話されます。子どものことを話される顔は、とても和やかです。

子どもがいなくなって10年以上にもなるという里親さんの地区では、子育ての大先輩である地区の人々の関心が一心に留学生に注がれているといえます。皆さん笑顔で接し、いつも気にかけてくれるのです。「会話の中心に子どもがいる」という状況をこの制度はもたらし、学校を活気づかせ、島を元気にしています。

留学生を預かる里親さんは、自分の子どもと思って、一心に愛情や願いをかけ育てています。できたことを褒め、できるように励ましながら、島での生活がより充実したものになるようにとひたむきです。しかし、環境の変化は、留学生だけではなく、里親さんにとっても大きな変化です。思いが伝わらない時、どこまで介入してよいのか迷う時など、子育てをしていく上での悩みや迷いを抱えます。はじめが肝心です。実親さんと本音で語り合い、信頼関係を構築すること、そして、連携を適切に取り合いながら子どもの姿を共有することが何より大切です。

そこで重要な役割を担うのが久賀しま留学連絡協議会です。留学生を中心に据え、実親さんと里親さん、学校、地域が子どもの成長を支えるのです。学校では、月2回の学校便りとホームページを通して子どもに関わる情報を発信しています。「安心してください、お子さんは元気です。島は元気です」という思いを込めて。今後、実親さんも交えた連絡協議会を年1回でも開催できればと考えます。

(五島市久賀しま留学連絡協議会 会長 柳田直子)

角田亮明 (すみだりょうめい)

昭和36年長崎県五島市生まれ。長崎大学教育学部を卒業後、県内の小学校で教諭・教頭・校長として勤務。平成28年4月より長崎県五島市教育委員会学校教育課に勤務、「五島市久賀しま留学生受入事業」を担当。久賀島は亡き父親の故郷。

ともに募集定員五名を維持して事業を充実させていきます。七月中旬に行われた「五島市中高生弁論大会」に、中学校一年生の留学生が久賀小・中学校を代表して出場しました。発表の最後に、「僕は、この島に来てよかったと思う。簡単に自分を変えることはできないが、歩みは遅くても、

少しずつ前進していると思うからだ」と力強く思いを語った姿は、本当に輝いて見えました。留学生三人が良さや個性を発揮し、島の子どもたちも負けずに成長する。学校がどんどん元気を増しています。そして、それを見つめる島のみなさんも笑顔、笑顔なのです。